

修報〈論語素読会会報〉

巻 頭 言

愚直なくらい真っ直ぐな教え
——一以て之を貫く——

学校法人昌平黌 理事長
田 久 昌 次 郎

この度、論語素読会会報「修報」第十四号が刊行されることに心よりお喜びを申し上げるとともに、素読会関係者のご尽力に敬意を表します。

さて、昨年いわき短期大学は、短期大学基準協会による「認証評価」を済ませ、本年三月二十四日付で適格認定を受けることができました。そして、この評価結果のレポートの中で、論語素読会の活動とこの「修報」刊行に対して、『地域社会に建学の精神を浸透させる堅実な取り組みとして特に優れた試み』との高い評価を頂戴することができたことは、現代社会が昌平黌建学の精神を必要としている証であり、学生諸君・教職員には誇りと自信を有して欲しいと願っています。加えて、本活動にご支援を賜った一般受講生を始めとする地域の皆さまに心より感謝申し上げる次第です。

一方で、『建学の精神を涵養する必修科目や講話等では、学生の実態を踏まえながら、一層の理解を促す教育内容や教育方法の工夫を今後とも検討されたい。』との手厳しいご意見も頂戴いたしました。

師弟関係を取り結び、学びの提供や学習環境を整えることが、今ほど難しい時代はないのではないかと。情報の洪水の中で何を取捨選択するのか、多様な価値観・規範意識の希薄化で確固たる伝統や信念を伝え・学ぶことが出来にくくなっている。高等教育のユニバーサル化が進展している今日、教育内容や教育方法の工夫は重要な課題であります。しかしながら、建学の精神の理解で言えば、うわべだけの知識・理解を得るための小手先の教育内容・方法の工夫は本筋ではない。その時には理解できずとも、また心に納まらなくとも、時と共に血となり肉となっていく価値観の醸成・一人ひとりが日々の生活の中で体現できる愚直なくらい真っ直ぐな教えがあってもいいと考えます。

孔子は言う。『人の生くるは直^{なお}し。これを罔^しいて生くるは、幸いにして免るるなり。』（雍也篇第十六）

罔^しは「網」の原字であり、一般に「亡」に通じて「ない」の意味を表しています。転じて「真実でない」・「ないがしろにする」「誣^{ふも}罔」（作りごとを言って人をそしる。＝誹謗）などの意味も有し、孔子は道理に合わないことを無理にこじつけて生きることを戒めています。そん

な輩は、A chance hit（まぐれ当たり）で災^{わざわ}いを免れているだけで羨^{うらや}むことなど何もない、
実直に生きることが一番であると。そして、『これを道^{みち}びくに徳を以てし、これを齊^{ととの}うるに礼
を以てすれば、恥^かありて且^{ただ}つ格し。』（為政篇第二）つまり、実直に生きるためには徳（道徳）
や礼（礼儀）を教え、それによって自分自身を律していけば、人は自然に不正を恥じ正しい行
動を取るようになる。

学生諸君には、本覺建学の精神が孔子の教えを理解するきっかけとなり、時間が多少かかっ
ても、一人ひとりの人生の中でその教えを実直に体現されることを願っている。論語素読会の
開催や修報の刊行、そして、孔子祭の実施は本覺建学の精神の可視化であり、今風に言えば「み
える化」と言うことになろう。学生や教職員に対して目に見える形での理解を求めてきたが、
更に進んで、一人ひとりの実践・実行が容易となる取り組み・工夫を時代は求めている。その
意味で、教職員一人ひとりの益々の努力ならびに叡智と行動の発露をご期待申し上げ挨拶と致
します。